

## 1 4 生涯にわたる読書能力の形成に関する総合的研究

研究代表者 立田 慶裕（生涯学習政策研究部 総括研究官）

### ①研究の趣旨，ねらい

近年、活字離れが原因と考えられる日本語力の低下がすべての世代にわたる問題となっている。若年世代の活字離れの原因として、国語教育研究者の調査結果では、親や教師自体が本を読まなくなっている状況が指摘されている。そこで、本研究は、①幼児から高齢者にわたる人々の「読書行動」と「読書能力」の変化を実証的調査から明らかにし、③日本及び世界の読書教育の比較調査研究を踏まえ、各地における読書能力形成のための教育プログラムを収集して、③今後の学校教育や社会教育、家庭教育の中でモデルとなる実践的なプログラムを提案し、④「生涯にわたる読書能力」を形成するための理論及び政策上の教育課題を探ろうとするものである。

### ②研究成果の概要

- 読書行動及び読書能力に関する質問紙調査を、平成 16 年度は、インターネットによる大学生調査（約千名対象）、平成 17 年度は、小学生、中学生を対象として（それぞれ約 1500 名、約 800 名）行った。その主な質問項目は、①読書行動、②読書能力（共感力）、③内発的要因（読者の興味や関心など）、④外発的要因（親や友人などの影響や図書館や書店の利用、読書時間の有無）などである。平成 18 年は、成人を対象としたインターネット調査を行った。
- 日本の事例研究調査として、「本の学校」、「ブックスタート」、「朝の読書」推進活動、「読書コミュニティ」、病院内の「患者図書館」や「音楽図書館」、「子育て支援図書館」を対象にした聞き取り調査を行う。
- 国際事例研究調査として、アメリカ合衆国の国際読書協会（IRA）、スウェーデン及びフィンランドの北欧地域、フランスの図書館活動、アジア地域（中国）、欧米地域（カナダ）を対象として、読書教育の実態とプログラムを収集する面接事例調査を実施した。
- 以上の調査結果は最終報告書に詳しいが主な学校教育調査の結果を示す。
  - ・学年があがるにつれて読書離れが進む
  - ・学年があがるにつれて映画やテレビの影響が増大する

- ・読書習慣をもつものともたないものの二分化が進む
- ・小学生は親、中学生は親より友人のすすめで本を読む
- ・中学生ほど雑誌を読むものが多くなり、SFやファンタジーも好まれる。
- ・面白くて感動できるから本を読む
- ・ファンタジーは共感性を高め、雑誌はストレスを高める
- ・小学生では、テレビゲームの利用が多いほど、気持ちの理解が低くなる。
- ・電話の利用が多いほどストレスが高くなる。
- ・中学生では、新聞を読む時間が長いほど、熟慮性が高まる。
- ・中学生男子ではインターネットの利用が多いほど気持ちの理解が低くなる。
- ・中学生女子では、ビデオやDVDの視聴が多いほど共感性全体が高くなる。

### ③中期目標との関連性

- 【目標1 国民のニーズや、成人の知識や技能のレベル・内容等を把握する基礎的な実証的研究】との関連では、国民の言語力の基礎となる読書活動に関するニーズや、朝の読書教育の提供など学校教育をはじめいろいろな制度や施設で提供されている読書教育のレベル・内容等の把握を目的とした研究である。
- 【目標2 社会変化を踏まえた生涯学習推進行政の在り方についての調査研究】との関連では、急激に変化する情報メディア社会の影響を受けて、子どもから成人にいたるまでのメディアの環境が大きく変化している。また、子どもの読書活動推進法や文字・活字文化振興法の成立を受けて、子どもや大人の読書教育を補償するために、生涯にわたる読書教育をどのように推進するかを検討するための実証的な調査研究として本研究を行った。
- 【目標3 生涯学習の成果の活用を促すための仕組み・方策や現代の日本社会が直面している諸課題（現代的課題）の解決を図るための生涯学習政策の在り方についての理論的・実証的な調査研究】との関連では、現代的課題の一つである情報化社会への対応という観点に立ち、多様なメディアの普及する中で、生涯にわたる読書活動を推進するための多様な方策と政策の在り方を探る調査研究となっている。

④今後の研究予定

本研究の調査研究の成果を踏まえ、平成19年度より、プロジェクト研究「言語力の向上をめざす生涯にわたる読書教育に関する総合的研究」（平成19～21年度）を開始した。

⑤キーワード

- (1) 生涯読書                      (2) 読書                              (3) 読書能力  
(4) 読書教育                      (5) 読書コミュニティ              (6) 朝の読書  
(7) ブックスタート              (8) ブックトーク

⑥本研究の研究報告書

- 立田慶裕「生涯にわたる読書の楽しみ」『社会教育』No.710、56-57頁、平成17年
- 立田慶裕「生涯にわたる読書」赤尾勝巳編『現代のエスプリー-生涯学習社会の諸相』156～168頁、至文堂、平成18年
- 岩槻知也「子どもたちは本とどのようにつきあっているのか」『社会教育』No.235、20-24頁、平成19年
- 古屋貴子「成人の読書活動に関する実態調査レポート」『社会教育』No.235、25-229頁、平成19年
- 『生涯にわたる読書能力の形成に関する総合的研究』報告書、平成19年

⑦関連する先行研究や参考となる研究等

- ジム・トレリス『読み聞かせ』亀井よし子訳、高文研、1987
- 秋田喜代美『読書の発達心理学』国土社、1988
- アルベルト・マンゲル『読書の歴史』柏書房、1999
- 室謙二編『本は変わるか』トランスアート、1999
- 室謙二・仲俣暁生編『人はなぜ本を読まなくなったのか』トランスアート、2000
- O E C D 編著『生きるための知識と技能』ぎょうせい、2002
- 有元秀文『読書へのアニメーション入門』学習研究社、2002
- 学校図書館問題研究会「ブックトークの本」編集委員会編『ブックトーク再考』教育史料出版会、2003
- 秋田喜代美・庄司一幸編『本を通して世界と出会う』北大路書房、2005
- ライチェン他『キー・コンピテンシー』立田慶裕監訳、2006